

申し出路線の概要

- ① 御殿場線
- ② 十里木線
- ③ 桜堤線
- ④ 須山線

単独維持困難を申出した路線について

- ①御殿場線(三島市・裾野市・御殿場市) 【富士急モビリティ】
三島駅～裾野駅入口・岩波～御殿場駅

- ②十里木線(裾野市・御殿場市) 【富士急モビリティ】
御殿場駅～須山～十里木

- ③桜堤線(三島市・長泉町・裾野市) 【富士急シティバス】
三島駅～桜堤・伊豆島田南～裾野駅

- ④須山線(三島市・裾野市) 【富士急シティバス】
三島駅～裾野駅・御宿・下和田中～須山
三島駅～裾野駅・御宿～下和田・帝人アカデミー富士

※①～④は国庫補助要件に該当する地域間幹線系統である。

【年度の考え方】

	令和4年(2022年)												令和5年(2023年)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域間幹線系統 (国庫補助)																								
その他路線																								

① 御殿場線

三島駅～裾野駅入口～御殿場駅（富士急モビリティ）

運行目的(役割)

- ◆ JR御殿場線沿線を運行(補完)し、御殿場駅・裾野駅三島駅の主要駅を繋ぐ広域幹線。
- ◆ 沿線には学校・病院・企業が多く存しているため、通学・通院・通勤を中心とする市間を跨ぐ生活移動を資することを目的に運行。
- ◆ また、静岡県外を結ぶビジネス移動や観光移動の交通結節点である新幹線三島駅、JR御殿場駅から県内への移動手段として広域移動の円滑化及び地域内の活性化を図ることを目的とし運行している。

運行の状況



◆ 運行回数・運行距離

	運行回数			運行距離
	平日	土曜	日曜	
往路(御殿場駅→三島駅)	6便	6便	6便	21.8km
復路(三島駅→御殿場駅)	4便	4便	4便	

◆ 収支の状況

年度	利用者数	運行経費(A)	運賃収入(B)	欠損額(B-A)	補助額			バス事業者負担額	備考
					国庫補助	県補助	市補助		
2019年度	59,455人	34,978千円	15,646千円	▲19,332千円	3,897千円	3,897千円	3,387千円	▲8,152千円	
2020年度	43,765人	35,949千円	10,490千円	▲25,459千円	6,781千円	5,425千円	2,767千円	▲10,486千円	
2021年度	43,539人	32,182千円	10,330千円	▲21,852千円	4,225千円	4,225千円	3,958千円	▲9,444千円	(見込)

※平成29年度(2018年度)は富士急モビリティと富士急シティバスで共同運行。

2018年度からは、富士急モビリティ単独運行。

◆ 利用人員

平日1日あたり約130名の利用

◆ 地域間利用の状況

- ◇ 裾野市内⇒御殿場・三島市内 約26名
JR「三島駅」「御殿場駅」への接続、近隣市内の病院等への通院、通勤及び通学
- ◇ 御殿場・三島市内⇒裾野市内 約23名
JR「裾野駅」への接続、裾野市内事業所への通勤及び通学

◆ その他

平成30年(2018年)4月2日のダイヤ改正で富士急シティバスが退出し、現在は富士急モビリティ単独運行。

②十里木線

御殿場駅～須山～十里木（富士急モビリティ）

◆ 運行目的(役割)

- ◆ 御殿場市と裾野市の須山地区を結び、通学・通勤・買い物等広域利用がある基幹路線である。
- ◆ 高齢者層を中心とした、病院・整形外科への通院手段を提供。
- ◆ 十里木地区から須山小学校への通学の足となっている。
- ◆ また、十里木地区・須山地区からの通学需要や、鉄道・他の公共交通機関への接続によるネットワークを構成する要素となっている。

◆ 運行の状況

◆ 運行回数・運行距離

	運行回数			運行距離
	平日	土曜	日曜	
往路(御殿場駅→十里木)	6便	6便	6便	19.1km
復路(十里木→御殿場駅)	6便	6便	6便	

※うち往路の5便と、復路の4便は富士サファリパークを經由

◆ 利用人員

平日1日あたり約83名の利用

◆ 地域間利用の状況

◇ 御殿場市内⇒裾野市内 約14名

地元通勤・通学利用客に加えてサファリ、ハイカー、須山浅間神社等観光客

◇ 裾野市内⇒御殿場市内 約7名

御殿場市内や県外への通勤、通学、通院、買い物

◆ 収支の状況

年度	利用者数	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (B-A)	補助額		バス事業者 負担額	備考
					国庫補助	県補助		
2019年度	47,934人	38,599千円	16,666千円	▲21,933千円	3,746千円	3,746千円	▲14,441千円	
2020年度	34,470人	39,671千円	16,297千円	▲23,374千円	7,452千円	4,969千円	▲10,954千円	
2021年度	31,403人	35,514千円	8,780千円	▲26,734千円	5,177千円	5,177千円	▲16,380千円	(見込)



沿線施設名称

JR御殿場駅、フジ虎ノ門病院、東部病院、渡辺整形外科、原里中学校、原里小学校、原里支所、板妻駐屯地、須山支所、須山小学校、裾野富士山資料館、クラブウ、バイオパーク、富士裾野工業団地、東海ゴム、JAなんすん、須山浅間神社、富士サファリパーク

③桜堤線 (富士急シティバス)

三島駅～三島駅北口・桜堤～裾野駅

運行目的(役割)

- ◆ 三島市・長泉町・裾野市を結ぶ基幹路線
- ◆ 三島駅・裾野駅の周辺や、鉄道に接続した通勤・通学利用が見られる
- ◆ 平成24年4月より、道路改善進捗や地元要望により運行開始

運行の状況

- ◆ 運行回数・運行距離

	運行回数			運行距離
	平日	土曜	日曜	
往路(三島駅→裾野駅)	15便	9便	9便	6.7km
復路(裾野駅→三島駅)	13便	9便	9便	

- ◆ 利用人員
平日1日あたり約 240 人の利用

- ◆ 収支の状況

年度	利用者数	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (B-A)	補助額			備考
					国庫補助	県補助	市町補助	
2019年度	69,384 人	24,511 千円	15,352 千円	▲9,159 千円	2,348 千円	2,348 千円	1,765 千円	
2020年度	48,727 人	24,215 千円	12,639 千円	▲11,576 千円	4,505 千円	3,323 千円	1,022 千円	
2021年度	69,295 人	26,004 千円	16,172 千円	▲9,832 千円	3,173 千円	3,173 千円	調整中	(見込)

利用状況

裾野市、長泉町、三島市の市町間移動が多数(92%)となっており、三島駅、裾野駅で他の公共交通機関に接続する、公共交通ネットワークを構成しています。

- ◆ 桜堤地区(長泉町)・伊豆島田地区(裾野市)からの三島駅・裾野駅両方面の通勤・通学・買い物等需要の交通手段となっています。
- ◆ 一部、三島駅北口から裾野市内への最短経路としての利用も見られます。
- ◆ 当路線の沿線では、他の路線と異なり、高齢者層だけでなく、若い年齢層にも利用されています。

今後の運行について

利用状況は改善傾向であり、2016 年度(平成 28 年度)からは国庫補助対象となり、国・県・長泉町の支援をいただいて運行をしておりますが、なお赤字が大きい状態です。

引き続き、時刻設定の改善と、利用環境の整備に努めて参ります。

当社では業界団体のガイドラインに沿った新型コロナウイルス対策に努めておりますので、今後ともこの系統の運行を継続するため、厳しい状況のご理解とご乗車によるご協力をお願いいたします。



④ 須山線 (富士急シティバス)

三島駅～裾野駅・御宿・下和田中～須山

三島駅～裾野駅・御宿～下和田中～下和田・帝人アカデミー富士

運行目的(役割)

- ◆ 三島市から裾野市を縦断する幹線系統
- ◆ 沿線から裾野駅・三島駅や他の公共交通機関に接続する、通勤・通学を中心とした公共交通ネットワークを構成。
- ◆ 高齢者層を中心とした、病院・整形外科への通院手段
- ◆ 裾野市内では、須山地区からの通学需要や、鉄道・バス等の他公共交通機関への接続によるネットワークを構成する要素となっている。

運行の状況

◆ 運行回数・運行距離

	運行回数		運行距離
	平日	土休日	
往路(三島駅→須山)	6便	4便	19.8km
復路(須山→三島駅)	8便	6便	
	運行回数		運行距離
	平日	土休日	
往路(三島駅→下和田)	5便	2便	16.7km
復路(下和田→三島駅)	4便	2便	

◆ 利用人員

平日1日あたり約373人の利用

◆ 地域間利用の状況

- ◇ 三島市内⇒裾野市内 約73人
JR「裾野駅」への接続、裾野市内事業所への通勤等
須山で水ヶ塚公園系統への接続
- ◇ 裾野市内⇒三島市内 約68人
JR「三島駅」への接続、三島市内の病院等への通院、中心街への買い物等

◆ 収支の状況

須山発着

年度	利用者数	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (B-A)	補助額		バス事業者 負担額	備考
					国庫補助	県補助		
2019年度	75,185 人	37,449 千円	15,129 千円	▲22,320 千円	3,529 千円	3,529 千円	▲15,262 千円	
2020年度	57,106 人	36,848 千円	13,915 千円	▲22,933 千円	7,505 千円	3,631 千円	▲11,797 千円	
2021年度	65,016 人	39,842 千円	18,534 千円	▲21,308 千円	5,120 千円	5,120 千円	▲11,068 千円	(見込)

下和田発着

年度	利用者数	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (B-A)	補助額		バス事業者 負担額	備考
					国庫補助	県補助		
2019年度	52,974 人	18,457 千円	10,562 千円	▲7,895 千円	1,972 千円	1,972 千円	▲3,951 千円	
2020年度	44,432 人	18,021 千円	9,155 千円	▲8,866 千円	2,798 千円	2,332 千円	▲3,736 千円	
2021年度	44,290 人	19,382 千円	9,558 千円	▲9,824 千円	2,800 千円	2,800 千円	▲4,224 千円	(見込)



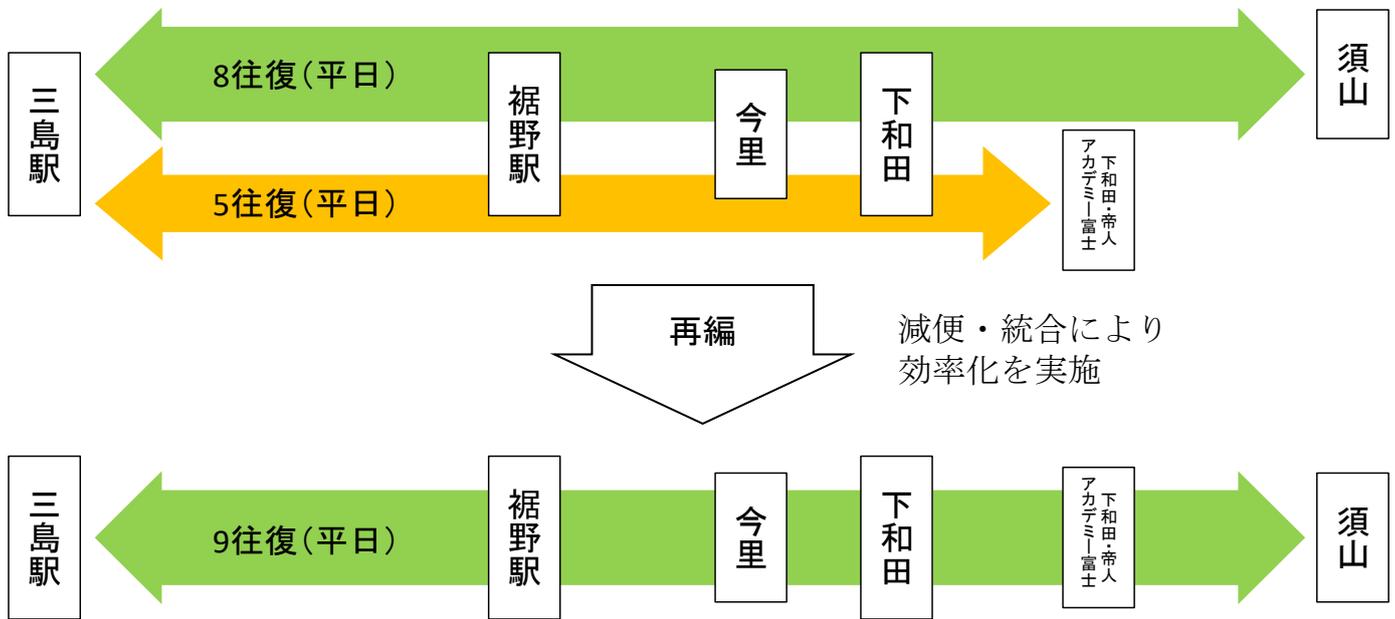
退出の申出について

路線の運行を継続するにあたり、当路線が開設された時代からの環境変化により生じた、運行経路に関する課題を見直したいたく、2021年3月末に退出を申出しております。

今後の運行について

I: 須山線の2系統の統合について

須山線の下和田・帝人アカデミー富士発着系統が国庫補助の補助要件を満たさないことから、須山発着に統一することで補助要件を満たしつつ、全体として減便を行いながら、支援を受けた運行を引き続き実施する事で、今後の路線維持を図ってまいります。



	運行回数		運行距離
	平日	土休日	
往路(三島駅→須山)	8便	6便	19.7km
復路(須山→三島駅)	10便	6便	

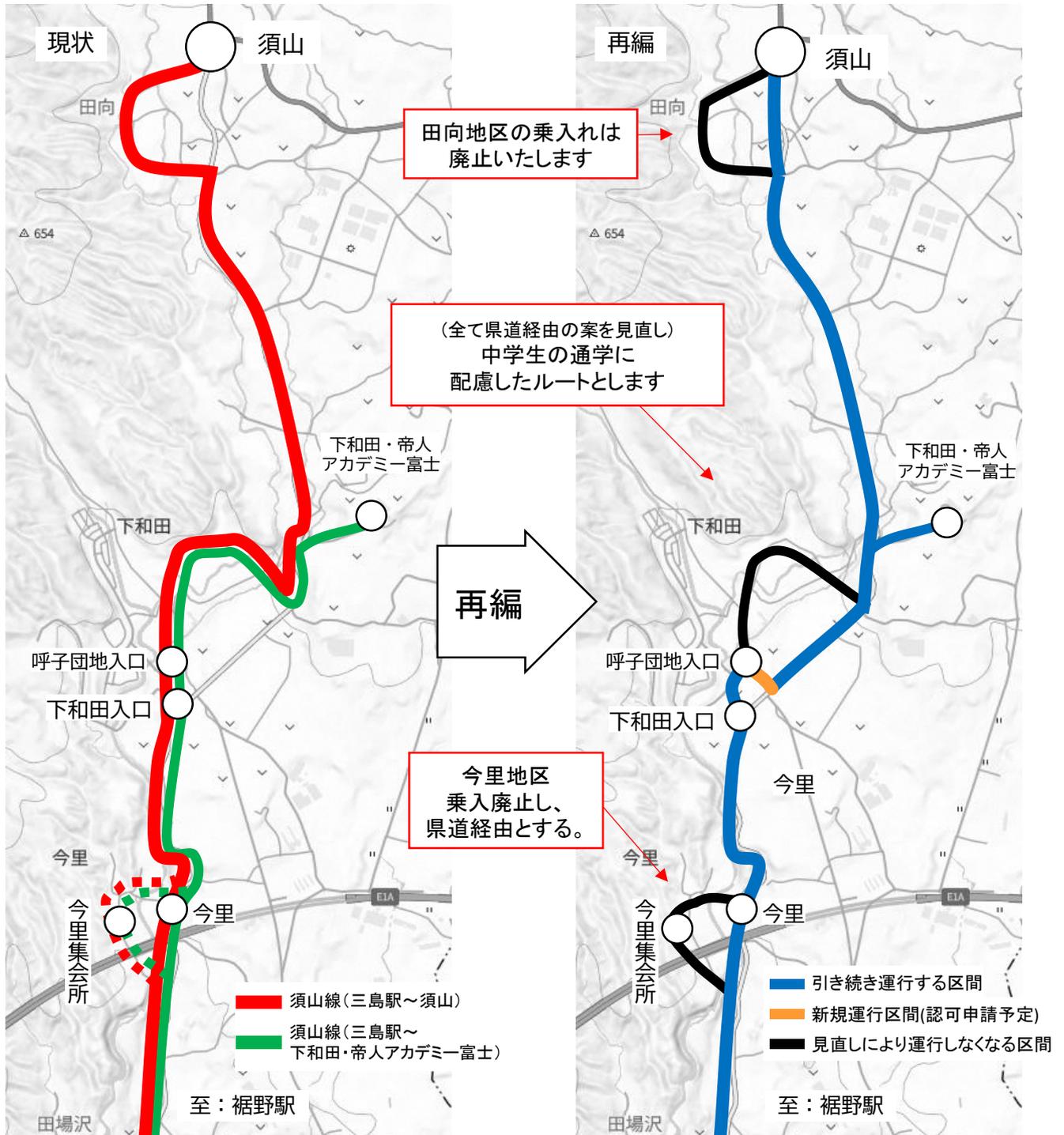
※詳細な運行時刻については調整中です

Ⅱ：集落内乗入れの見直し

須山線においては、今里・下和田・田向の集落に乗り入れております。

須山線が運行を開始した昭和の時代は交通量の少なさから安全上の支障はなかったものの、平成・令和と時代を経るにつれ、車両の交通量も増えており、各地区とも県道24号線に出る交差点においては、坂に位置する、また見通しが良くない等、安全上の課題となっております。

そのため、県道24号線経由を基本の運行経路とすることで、運行の安全性を向上いたします。



今里地区、田向地区の狭隘な地域内乗入れについて、見直し・廃止します。

なお、下和田地区については、近年開通した市道2383号線(歩道あり)を活用することで、安全な運行を確保し、引き続きの運行をはかってまいります。

これら2つの見直しにより、年間約2万2千kmの走行距離を削減し、約960万円の経費を削減することにより、路線存続を図ってまいります。

費用等削減見込（2022年度を想定した年間換算）

	年間走行距離(計画)	運行経費(見込)
再編前	136,864km	58,895千円
再編後	114,654km	49,337千円
削減額	▲22,210km	▲9,557千円

再編後の運行にあたりましては、新ダイヤの告知に勤めさせていただき、減便による利用の減少＝収入の減少がないよう、利用促進を図って参ります。また、三島駅～裾野駅間、特に三島市内の他系統と重複する区間については他の系統による補完を行うようにいたします。